

## 第9回 国語力増強法試論

### 1. 先ず基礎からはじめる

本年度のセンター試験も終わりました。国語の得点が下がり平均が100点を割ったとするデータも出ています。今年のセンターは国語が肝だったみたいですね。

ここでは、大学入試の国語（特に現代文）でどうすれば高得点が上げられるかを考えてみたいと思います。

先ず皆さんの国語力（現代文力）はどのようにして、培われてきたのでしょうか、高校1年生、2年生を対象にして、ここからは私の想像で話を進めていきたいと思っています。（該当しない場合には無視して下さい）

小学校時代には親から言われて、少しは読書をしていましたが、中学校から運動部に入り忙しくなり、本を読む時間はなくなりました。加えて塾に通い、高校受験のための勉強を始めると、本を読むことはなく、受験のために国語の問題を解くことが読書の代わりとなっていった。高校でも相変わらず本を読んでいない。

皆さんはあてはまるでしょうか？これは私の塾の

高校生の平均的な読書体験です。国語の文章読解は高校入試で練習した程度で、徹底的に解答の根拠を考えたり、論理的に文章を読むことに慣れていない可能性があります。更に言えばある一定以上の速度で、読み間違えることなく、読み進めることができるような練習がなかったかもしれません。

特に地方の公立高校が志望だった場合には、入試問題が比較的易しく、最低でも85点以上を国語で得点できていなかったならば、大学入試の現代文で問題が出てくる可能性があります。特に理系の皆さんは高校入試のとき国語70点台で他の科目でカバーしていた方もいらっしゃるのではないでしょうか。

数学を例に考えてみましょう。高校の数学が理解できないとしたら、中学の数学に何らかの問題があったと考えるのが普通です。更に中学の数学がわからなければ小学校に戻らなければ問題は解決しないのではないのでしょうか。同じことを国語に置き換えると、大学入試の現代文ができない場合、それは中学校、小学校に問題がある可能性もあります。更に、国語は決まったルールを学習しているわけではないため、意識的に学年を下って復習することが難しい教科になっています。いくら大学入試で定評のある問

題集をやってもその内容を理解できない可能性があるのです。

とりあえず、現代文が苦手と感じたら、難関私立高校の問題が解けるかをチャレンジして下さい。実力不足と感じたら、中学入試問題に下がって下さい。小学生・中学生に下がって勉強するなら、出口先生の問題集は大変優れていると思います。

### 2. 国語にとって基礎とは何か

前回は学年を下げて基礎に戻ろうという話をしました。今回は国語という教科の基礎とはそもそも何なのかを考えてみたいと思います。数学(算数)を例にしてみますと、基礎とは言うまでもなく、四則演算(足し算、引き算、かけ算、割り算)です。では国語で数学のような基礎に該当するのは何でしょうか？ 実際に小学校で何が行われているかを考えてみましょう。ひらがな・カタカナ・漢字の読み書きの習得が最初で、それと並行して文章を読んだり、書いたりする訓練が行われます。（現在は人前で発表することやディベートなども小学校で登場します）

数学(算数)は小学校卒業時には上記の四則演算の他に図形・少数・分数・割合・比が登場し、中学時代に方程式・不等式・関数・無理数・円周角・三平方・確率などの新しい単元(概念)が次々登場し、高校数学に繋がっていきます。対して国語も文法・詩・和歌・敬語・修辭法などを学び、更に古文・漢文も登場しますが、数学と根本的に違うのは、新しい概念が登場するのではなく新しい知識だけが増えていく点

にあります。国語の基礎は読解力(読み、書き、発表する)です。

まとめると、数学が常に新しい概念の取得で忙しく、前の単元を前提に積み上げなければ進まないのに対して、国語は古文・漢文を除けば、小学校・中学校・高校と大きな変化がなく、学校のテストが国語の実力を反映していない場合もあり、日常的に日本語を不自由せず使っていることから、真の国語力が自分にあるかどうかの判断が難しくなります。「隠れ国語力不足」の誕生です。

また、数学(算数)と国語は「論理」に直接関わる科目で、数的論理と国語的な論理を習得することがすべての勉強の基礎と言えると思います。

以上の点から「隠れ国語力不足」を発見し、早く対策を練ることは非常に重要ではないかと思われれます。特に前回述べました中学受験を受けていない場合や標準的な公立高校入試の国語しか勉強してこなかった場合には要注意です。

補足：私の経験では難関中高一貫校の上位の中学生はセンター試験の現代文を既に8割解けています。このことは、語彙だけが国語力の源泉ではないことを示しています。彼らと大学入試で伍して戦うことになるのであれば、国語の基礎を学ばなければならないことは自明です。

### 3. 国語・英語一体化論

前回、前々回で国語が基礎学力の隠れたキーワードであることを述べさせていただきました。今回は国語と英語の関係について考えてみたいと思います。私の塾でやった実験です。センター試験の過去問か予備校で出している予想問題集を使って以下のことを試してみました。

長文問題の解説部分に掲載されている問題文、選択肢の全訳を使って、全て英語を日本語に置き換えた問題を作成し、生徒に解いてもらいました。当然ですが全て日本語になっているわけですから、満点を取れるものと考えていたのですが、英語で問題を抱えている(200点中120点未満)生徒は多くの場合、満点がとれませんでした。(2問か3問間違えました)

この結果は指導する側から見ると驚きでした。どんなに英語ができるようになっても満点はとれないということになります。しかしこの結果は単に対象者の日本語力が低いと結論付けるのは早計です。むしろ多くの場合は日本語を飛ばし読みしているのが原因ではないかと思われる節が多く見られるからです。私どもの塾では「雑に読む」と表現していますが、日本語(国語)を精読する習慣が確立されていないことが原因の一端ではないかと考えるようになりました。

このような状況の中で英語を考えてみると、英語も飛ばし読みが普通に行われていることが高い確率で予想されます。しかも飛ばし読みをする

生徒はわからない部分を推測したり、補うのではなく、ただ飛ばしている可能性が高いのです。

先ず、現代文で文脈をたどり、わからない部分を論理的に推測し、読み進める訓練をしなければ、英語を伸ばしても、英語の長文には対応できないことが理解いただけたでしょうか。国語をベースにした論理による訓練は圧倒的に英語で役に立つものと考えられます。難関校(旧帝大、早稲田、慶應)と呼ばれる大学の英語の問題は国語力が大きな力を占めます。私見ですが早慶とMARCHの差はここにあると思います。

### 4. 論理とは何か

前回までは国語力が基礎学力の要でありその根幹は論理力だというお話をさせていただきました。今回はそもそも論理とは何かについて考えてみたいと思います。論理という言葉から二つのイメージが浮かび上がります。一つは論理的という言葉から理解できるように、「つじつまの合うようにものごとを説明したり考えたりすること」です。もう一つは「帰納法」や「演繹法」さらには「弁証法」などの理論を構築する時の方法論そのもののことを指す場合があります。

大学受験では当然ながら、理論を作り上げることを求められているわけではありません。大学入学後に学ぶ学問の中で説明されることがらの筋道を厳密に追っていくことができるかどうかを判断すること、つまり前者の能力判定のために試験が行われます。教科ごとの試験はその基礎能力を

問い、推薦試験では小論文などで直接的にその能力を判断していると考えられます。(話がつまらなくなりました。すみません)

それでは、論理的とはいったい何を指すのでしょうか。よく、「あの人は論理的である」と言うときがあります。これは褒め言葉にもなりますが、「理屈っぽい」とか「くどい」を含意することがあります。日常では悪い意味になることもあるこの「論理的」という言葉は学問の世界ではマイナスの意味はなく、むしろ絶対的に必要な条件となっています。大学受験で求められる論理とは学問の世界に入るためのパスポートなのです。簡単に言えば人間が他の人に何かを伝えるときに、説得力があり誰でも同じ結論に至ることができるのが論理の力です。

【どうすれば論理力をつけることができるか = パズルで論理を学ぶ】

論理力は、国語や数学を学ぶ中で醸成されます。数学だけが論理的な思考を育てるように感じるかもしれませんが、むしろ実社会で日本語を媒介にして論理的なコミュニケーションが行われていることを考えると、国語(日本語)も論理力をつけるのになくはならないツールだと言えます。しかし、国語や数学以外でも論理だけを勉強することが可能になってきています。例えばパズルは論理的な思考を学ぶのに最適な教材の一つです。クロスワード、数独(ナンプレ)、などパズルブームの中で、いろいろなパズルが利用できます。しかし、問題点としてあげるならば意

識的に論理を学んでいない点にあります。例えばRPG(ロールプレイングゲーム)なども論理的な思考が求められることがあります。本人が意識化しない場合には、他の勉強に波及しない場合もあります。

【AO入試は就活は論理力の勝負】

難関大のAO入試などで求められる、志望理由書や小論文の作成で求められる能力は自分の考えを如何に相手に説得力を持って伝えられるかです。言い換えれば論理的に説明することができるかどうかのプレゼンテーション能力を問うています。

また就職活動(就活)で現在主流となっている、リクナビやマイナビなどの就活サイト経由のエントリーは、その後一次試験として多くの大手企業ではSPIテストをネット上で受けることが求められています。SPIテスト(適性能力テスト)の問題の5割は論理性を問う試験です。論理的な論理的なトレーニングをしておかないと、いくら有名大学に入っても就職の際に面接まで進めない悲劇が待っているのです。

**シオンセミナーでは論理力を鍛え、国語力と英語力を伸ばすノウハウがあります。是非お問い合わせ下さい。**